
背中

こはる亭

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

背中

【コード】

N8635H

【作者名】

こはる亭

【あらすじ】

秋の休日で見かけた、畑作業中の女性の背中を見て思い出した母の暖かな背中と子ども頃の我儘。

(前書き)

秋の香りが漂う休日の朝、久しぶりに散歩に出掛けた。

途中にはすすき、萩が盛りを迎えていた。

畑の作業をしている方の後ろ姿を眺めていると、私が小学生の頃を
思い出した。

秋の香りが漂う休日の朝、久しぶりに散歩に出掛けた。

途中にはすすき、萩が盛りをむかえていた。

畑の作業をしている方の後ろ姿を、歩きながら眺めていると、私が小学生の頃を想い出した。

あの頃の私の母は、今の私より若かったと思う。

お洒落もしないで、パートの仕事、家事、家族の世話に明け暮れていました。

パートの仕事は、午前9時から午後5時までで 徒歩15分の距離を、母は徒歩で通っていました。

「ただ今、もう5時になると暗くなるね！」

「お帰り！」

「コーヒーを飲んでから、買い物に行くけど一緒に行かない？」

「行かない！漫画が見たい」

母は、寂しそうにコーヒーを飲んでいたと思う。

あの頃の私は、いつまでも母は元気だと思っていた。

暗い夜道を、母は一人で八百屋まで買い物に行く背中を気にもして

いなかった。

買い物籠を、重たそうに持つ母の背中を気にもしていなかった。

冷たい水で、食器を洗う母の背中も気にもしていなかった。

針仕事をしている母の後ろ姿も気にしていなかった。

母が働かないと生活が苦しいことなど気にもしていなかった。

あの頃の私を心の中で責めている自分がいる。

母の暖かな背中に、後ろから抱きつき

「欲しいものがあるの、ねえお願い!!」

母の手は、私の背中に回りおんぶをするような態勢になり

「何が欲しいの?」

「毛糸のボンボンがついた帽子だよ!!」

「それなら、母さんが編むよ!!」

「ええー、明日被りたいのに!!」

「明日? やってみるよ・・・可愛い色の毛糸もあるしね」

次の朝、机の上に橙色のボンボンがついた毛糸の帽子が出来上がっていた。

私は、喜びながら母の背中に飛びついて「母さん有難う!可愛いから大切に被るね!」

母が、徹夜で編み上げたことなど気にもせず、ただ喜んだあの頃の私を責めている。

今でも、母の温もりをこの季節になると思い出す私です。

(後書き)

誰にでもある母の思い出を書きました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8635h/>

背中

2010年10月17日04時27分発行